病児保育協議会
NEWS
第81号
2015年（平成27年）12月1日
〔発行人〕　会長 稲見 誠
〔発　行〕一般社団法人 全国病児保育協議会
〒154-0002 東京都世田谷区下馬 3-10-7 いなみ小児科内
TEL.03-3421-4885　FAX.03-3411-4936
一般社団法人 全国病児保育協議会ホームページ http://www.byoujihoiku.net/

病気の時こそ病児保育へ。元気な時ぐらい親子で過ごそう。

病児保育専門士の責務とは

全国病児保育協議会副会長　大 川 洋 二

2015年10月に鹿児島で開催された日本保育保健学会（会頭南武嗣先生）に参加させて頂きました。これは協議会の病児保育感染症ガイドラインを多くの保育関係者にも知っていただくと共に保育園・幼稚園で利用していただき、感染に対する予防や管理に役立ててもらうためでした。幸いにしてシンポジウム「保育施設における感染症の予防と現場での対応」は大好評裡に終わりました。このシンポジウムの前には日本小児科学会会長の五十嵐隆先生の御講演がありました。講演は日本が抱える小児医療の問題と保育領域での保健・医療の現況と高邁な理想への道筋に関してであり、いつもながらわかり易く話されました。しかしその中ですこし気になる点がありました。病児保育の必要性と充実を訴えながら、病気の時はお母さんがみてほしいと咽喉まで出かかっているのですよ。という発言です。私が関係したシンポジウムでも座長の先生から母親にもっと診てもらいたい気持ちがあるとの趣旨のお話がありました。

これらの趣旨の中には病気になったら子どもの状態に関係なく、じゃあ病児保育に預けるかといった安易な利用に対する警鐘があります。実際に、わが子をお迎えに行き、十分に状態を観察する前に病児保育施設を確保しようとする方もいらっしゃるようです。病児保育を利用する前にわが子の状態を理解しどんな対応が必要であるかをよく理解し、病児保育と自宅での保育看護に関する分担、更に保育園と病児保育施設を利用するうえでの役割を考える時間が必要です。このステップを省く保護者の方がいらっしゃるのは残念です。しかしこの親の看護についての主張の片隅に病気の時ぐらい親が看ろといった旧来の陋習がいまだに存在しているとすれば残念なことです。私が病児保育施設を開設したころに保護者の方から頼まれたことがあります。「病児保育を利用したことを秘密にしてください。病気の子どもを預けたとわかると園の先生に叱られます。」ということでした。はたしてこの「病気の時ぐらい親が看ろ」は正しい考えなのでしょうか。

協議会の基本的姿勢は病児にもその特性のあった保育環境が必要であり、その為に病児の状態と発達状況を十分理解したスタッフによる保育看護を提供することが不可欠であるということです。病気の時に小児科にいくように、重い状態になったら小児科病棟に入院するように、子どもは病気になったら病児保育で過ごすのです。そこには何の違和感も存在しません。しかしそこにも私たちが自覚しなければならない点があります。病児保育施設を小児科や小児科病棟と同等に扱かう為には、病児保育にも高い専門性を求められることです。小児科は小児科医が診療し、病棟は医師や看護師が担当するように、病児保育では病児保育専門士が保育看護を行わなければなりません。経験と専門知識をもった専門士が病児保育の中核になるように社会は明確に求めているのです。病児保育専門士には看護師に勝る保育知識と経験、保育士に勝る小児医療知識と経験があるのです。また問題が発生した時の対応と解決能力は専門士の研修期間にて育成の端緒が与えられます。この能力は病児保育に携わる期間を通じて常に磨かれ、更新されていく必要があります。自分を磨き上げると共に、これから専門士を目指すスタッフを指導することも大切です。この高い専門性を担保できた時に「病気の時には病児保育へ」がなんら抵抗なく全ての方に受け入れられることでしょう。

病児保育の目的は就労支援でも、育児支援でもありません。対象は子ども自身、すなわち子ども支援です。子ども支援をすることで育児支援が実現し、就労支援という結果につながります。これが少子化社会対策基本法に大綱として定められた子ども子育てビジョンの子どもが主人公という考えの究極の形です。

病気の時に子どもの世話ができないと大切な「愛着形成のチャンスを失う。」といわれたことがあります。子どもは病気をしないと愛着が形成されないのでしょうか。そんなことはありません。健康である時にこそお父さんお母さんには計画的に休暇を取っていただき、元気な子供と過ごす時間を持って頂きたいと思います。そしてわが子の愛着形成を見守ってください。病児へ提供する最適な保育看護の環境は罹病期間を短縮させ、一刻も早い健康な心身への回復を可能にします。そうです。病児保育は愛着形成を促進する機能を本来備わっているのです。そしてお父さんにもお母さんにも余裕をもって子育てをしていただき、また快適な就労環境を獲得してください。

病気の時こそ病児保育へ。元気な時ぐらい親子で過ごそう。

これが病児保育のいや保育そのもののこれからのキャッチコピーです。

平成27年度 北東北病児保育交流会

今年度の北東北病児保育交流会が、９月13日に八戸市総合福祉会館で開催されました。本会は主に岩手県、秋田県、青森県の３県で病児病後児保育を実施している施設のスタッフの研修会として年に１回行われています。今回は本会の代表世話人で、病児保育協議会青森県支部長の滝沢鷹太郎先生を中心に八戸市のスタッフが担当しました。

まず前日、会場近くのホテルで懇親会が開かれ、おいしい食事やお酒をごちそうになりました。協議会から来ていただいた大川洋二先生ともいっしょに楽しみましたが、八戸のスタッフのおもてなしには、先生もびっくりなされたことと思います。さらにえんぶりを鑑賞させていただくことができました。えんぶりは国の重要無形民族文化財に指定されている八戸の郷土芸能です。僕は生でえんぶりを見るのは初めてだったので、大変感動しました。えんぶりの前に僕は果敢にも津軽笛を吹きましたが、雲泥の差があり、大変恐縮しました。そのように懇親会は大変盛り上がり、親睦を深めることができました。

そして翌日はいよいよ研修会で、午前中の一番は八戸市の行政説明でした。それによると八戸市の病児保育事業は交付金が手厚く、滝沢先生の長年の努力と行政との固い信頼関係を感じました。つぎに大川先生から病児保育室における感染症対策の講演がありました。協議会において先生は身近な上司的存在で、その内容は知っているつもりでしたが、先生は終始、難しい内容でも平易なことばで正確に講演なされており、自分の説明の仕方を反省する思いでした。講習会には100人ほど参加していましたが、大変好評で、「病児保育室での感染症対策ガイドライン」は完売でした。午後は、３つの分科会に別れて講習をしました。僕は「病児保育室のセーフティマネジメント」を担当し、協議会のmimsを紹介しつつ、危険予知トレーニングで事故対策を聴講者に実習してもらいました。そのほかに「事例検討会」、「運営検討会」の分科会があり、それぞれ盛況でした。

来年は秋田で開催される予定です。本会には北東北３県ばかりではなく、函館からの参加者が増えてきました。東北新幹線が来春からは函館まで開通します。今後、ますます北東北病児保育交流会が発展することを期待します。

あらいこどもクリニック 病児保育室きりん（青森）　荒 井 宏 治

香川県支部定期総会

６月19日 香川県支部定期総会を開催しました。

会員総数25名（出席17名 委任状６名）。議事終了後、研修会として二つの講演を行いました。

１.西岡敦子先生（常任理事）から「病児保育の現状と未来」

働く女性の支援としての病児保育という側面からの解説。香川県のライフワークバランスのアンケートでは、①家族の理解②上司の理解③病児保育の必要性があげらている。高松市医師会の女性支部では、病児保育につながるホームページ「スマイル」が作られており、働く女性が復職したいとうときにどのような支援を得られるのか、情報を整理してのせているのでぜひ活用してほしい。

全国の病児保育の70％が赤字の現状で、未来は険しいが、行政との話し合いを行い、改善につなげていきたい。一人親への支援、広域の要望も繰り返し求めて行きたい。市町が権限をもっているので、地域のみなさんも現状打開に向けて根気よく話しあいを続けていくことが大切である。障害児､慢性疾患のレスパイトは、ニーズが高まっていうことが、全国の会議では報告され

ている。これには質の高い保育が必要で有り、特に感染対策は重要になるなど、今後注目される課題である。

病児保育専門士の認定が進み、香川では４名が取得している。多くの施設で取得してほしい。子育て支援ステーションという方向性を内閣府に提案している。

２.「病児保育室における遊びの検討」三好保育師（西岡医院）

病児保育室は、病気になった子どもたちがたまたま偶然にその日一日を過ごす場なので、保育園や幼稚園のように同年齢を主体とした保育よりも、異年齢での関わりを生み出しやすい保育の場と言える。ままごと遊び、工作、ゲームについて、病児保育での利点と注

意点が話された。

参加者からの感想も概ね好評であった。病児保育の現状がよくわかった。病児保育でレスパイトケアを受け入れられるようになると、介護、子育てしている親はとても助かり安心して子育てできると思った。病児保育専門士がもっと増え、受け入れできる施設ができれば、働く女性として助かると思う。４月より現在の業務につき、県内の状況がわからない中、貴重なお話を聞くことができよかった。また参加したい。異年齢での遊び方等、参考になった。取り入れていきたい。病児保育のスタッフであり、なおかつ２才と６才の娘を持つ者で、仕事をする上で病児保育はやはりありがたいと思う。今後も頑張っていきたい。医師、看護師と協力、意見交換しながら病児保育が育児支援の場となるよう頑張りたい。

全国病児保育協議会香川県支部 支部長
へいわこどもクリニック
病児保育 はとぽっぽ
中田耕次

第6回 四国ブロック研修会 in 徳島を開催して

平成27年９月27日日曜日、徳島市医師会館にて「全国病児保育協議会第６回四国ブロック研修会in徳島」を徳島県支部が担当して開催しました。この研修会は四国四県持ち回りで開催していますが、高知県での開催が未だ行なわれていないのが現状で、いずれ高知県での開催が望まれています。今回は四国四県から24病児保育施設の参加で、参加者内訳は保育士47名、看護師17名、医師11名、講師２名、医師会スタッフ２名、その他６名の計85名の参加がありました。研修会の半年前から実行委員会を設置し準備を行ないました。プログラム内容及び当日までの準備や運営は医師の指導のもと、保育士を中心としたスタッフが実務を行ないました。目的は、研修会を医師からのものでなく、保育士や看護師等のスタッフからの目線で内容や細事に渡って考慮することでした。

プログラムの内容は、１、「徳島県での病児保育に関するアンケートの報告」を実行委員によるアンケート調査を行なって報告。２、「病児保育専門士取得までの経験」徳島県第１号の病児保育専門士による報告。３、「子どもの薬と上手な飲ませ方について」薬剤師さんの講演。４、「発達障害からみた子育て」発達障害の専門小児科医師の講演、としました。どの内容も

参加者の興味を引くもので、研修会後の感想アンケートでも好評を得ました。

午後からは施設長会議と施設長以外のスタッフを３グループに分けて、４カ所で分散会を実施しました。施設長会議では、各地の現状や意見交換が活発に行なわれました。スタッフは「病児保育で今困っていること」をメインテーマとして、事前アンケートを研修会前に行い、話し合う事項を決めて話し合い、まとめを研修会の終わりに発表してもらいました。

この研修会は四国四県の病児保育関係者が一同に集まるもので、それぞれの立場で意見交換や交流ができ、有意義なものであったと思われました。

全国病児保育協議会徳島県支部長
田山チャイルドクリニック 病児保育所ラミィ
田山正伸

愛知・三重・岐阜合同研修会報告

H27年９月27日名古屋駅前のウインクあいちで、愛知・三重・岐阜の三県での合同交流集会を開催いたしました。前回までは愛知県のみでしたが。今回は３県に呼びかけての開催となりました。愛知77名、三重８名、岐阜１名、計86名で会場は超満員でした。

まず、愛知県支部会長の松川先生（プチポケット）の挨拶より始まり、会計報告の後、ランチョンセミナーとなりました。大同クリニックの浅井雅美先生の講演

「小児の院内感染症対策について」、ウイルス胃腸炎対策の具体的な処理の仕方を写真で教えていただきました。実践的であり、また学術的でもある講演でした。質疑では三重の二宮先生より、「デング熱の子供の保育」の質問がありました。

特別講演は中部学院大学教育学部教授の林陽子先生で「現代社会における病児保育の意義とその方法」のお話でした。子ども・子育て支援新制度における病児保育の位置づけ。こどもの心理から考える病児保育の留意点について、今日だけでも、「ワタシ」「ボク」をわかってほしいというこどもの心の読み取りを教えていただきました。

分科会では①アレルギー対策②インシデント対策と共有方法③感染症対策④病児保育施設における遊びの工夫⑤スムーズな施設運営に向けてについて活発に討論がなされました。アレルギー対策では各施設間で大きな差があり、インシデント対策では二宮先生よりカンガルームでの先進的な取り組みをお伺いしました。

今回、遠い所より参加していただきました三重・岐阜の先生がたに感謝いたします。他県での先進的な取り組に、私たちもさらにレベルアップして、病児保育に携わるべきとの思いを一層深めました。来年も研修会を三県合同でできるよう連絡をとりあいたいと思っております。より研修が深められ、交流の持てる場となるようにしていきたいと考えています。今回幹事のマミーの家市橋さんにも深謝いたします。

コスモスこどもクリニック 病児保育室なずな　前田敏子

平成27年度 第1回 石川県支部研修会報告

平成27年4月26日・日曜日、金沢市教育プラザ富樫に於いて、平成27年度 第1回石川県支部研修会が開催されました。

病児保育専門士の制度に対応する専門士の継続研修、および保育士や看護師の病児への対応のスキルアップ研修を行いたいと考え、聴講の要望の多かった、全国病児保育協議会常任理事、研修委員長の帆足暁子先生を講師にお迎えし、保育看護研修を行いました。

今回は石川支部主催交流会第10回を記念して県内の加盟及び非加盟施設だけでなく、福井県、富山県の加盟施設と金沢市内の一般保育園にもご案内したところ、福井2施設、富山2施設を含む全33施設から67名の方にご参加いただきました。

施設内訳は、病児保育（13)、病後児保育（2)、体調不良児対応（8)、一般保育園（9)、行政（1）でした。職種内訳は医師（1)、看護師(28)、保育士(36)、その他（2）で、そのうち病児保育専門士は9名でした。

帆足先生には、詳細な資料に基づき、病児保育の定義から病児保育を取り巻く最新のトピックスまでの解説と、臨床心理士としての豊富なご経験から、子どもや保護者とのかかわり方のコツとして具体的な対処法を教えていただきました。

聴講後の感想では、「具体的エピソードの多い分かりやすい講演で、日々の疑問が解消できた（28)」、「心のケアを含め子どもや保護者に対する配慮の大切さや配慮している姿勢を見せることの大切さを認識した(16)」、「病児保育の基本がよくわかった（8)」、「自分の子育てに照らし合わせても学ぶことが多く、明日からの保育看護に意欲がわいた（6)」、「一般保育園でも役立つ話が豊富だった（5)」、「専門職としての自覚が促された。自分の人間性を磨いていきたい(5)」、「今日の講演内容を生かした地域連携をしていきたい（5)」、「病児保育室だからこそ子どもや保護者が得られるメリットがあることが分かった（3)」、「国の方針など、新しい情報が聞けて良かった（1)」、「自治体の担当者にも、先生の講義を聴いてほしい(1)」、「全国病児保育協議会の働きが重要だと感じた(1)」といった意見が寄せられました。

印象に残った言葉として挙げられたものは、「関わった時間の長さではなく、関わりの質が子どもの記憶に残る」、「病気の子どもも守らなければならないが、親の生きる力も保障しなければならない」、「自分を守れない人は他人を守れない」、「子どもの生きる力をはぐ

くむことこそが重要」などでした。

今後の支部研修会のテーマの希望としては、医師による救急時の処置・発達障害・感染症についての講義・子どもの症状に合わせた与薬方法・食事メニュー・家庭看護のアドバイスの仕方について・保育園内の病後児保育施設設立の経験談・他病児保育施設の現状と地域との連携の仕方についてなどがありました。ぜひまた帆足先生のご講演をという要望も多く寄せられました。この結果を参考に次回からの研修会・交流会を企画する予定です。

帆足先生には、病児保育に対する社会からの様々な意見をどうとらえ、病児保育のあるべき姿をどのように追究し実践すればよいか、示唆に富むお話をいただき勇気を与えられました。

石川県支部長
横井小児科内科医院 病児保育室こりすの森　横井　透

大阪支部総会・関西地区合同研修会報告

平成27年９月26日土曜日に大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）５階特別会議室で第９回大阪支部総会・関西地区合同研修会を開催しました。参加者は支部総会に55人、合同研修会に89人でした。研修会参加者の府県別では、大阪75人、兵庫５人、和歌山３人、京都２人、滋賀２人、奈良２人、職種別では医師７人、看護師18人、保育士62人、事務職２人でした。大阪城近くの交通至便な会場であること、研修会内容に興味を持たれた方が多く、多数の参加希望を戴きました。

大阪支部総会では、平成26年度事業報告･会計報告･監査報告、平成27年度事業計画・会計予算の審議と承認を戴き、中野こども病院院長・理事長・大阪支部顧問木野稔先生から「訪問型病児保育について」、浜本小児科・大阪支部顧問浜本芳彦先生から「病児保育所の認知度について」の２題の講演を戴きました。

合同研修会では、あゆみ会田辺こどもクリニック・ピッコロケアルーム田邉卓也院長先生に「けいれん性疾患を持つ子供の保育について」と題した講演を戴きました。田邉先生は、本年度に改訂された日本小児科学会熱性けいれん診療ガイドライン策定委員で、1時間の講演と30分のQ&Aを行いました。

終了後のアンケートでは、「訪問型病児保育の現状を知る事ができた」、「熱性けいれんの診療ガイドライン2015で、新に追加・変更された注意点を混じえて説明して頂き理解しやすかった」との回答が多数ありました。「熱性けいれんの既往のある子どもの対応を改めて知る事ができて、良かった。保育に活かしていきたい」、「怖がらず観察すること。スタッフと話し合い、それぞれの役割を決め、起こった時に対応できるようにしたい」との回答や、「Q&A形式で分かりやすかった」などと好評な結果でした。

平成29年全国病児保育協議会研究大会を、木野稔会頭の元、大阪で開催することとなり、研修会終了後に実行委員会を開催しました。全国の皆さまのご参加を何卒宜しくお願い致します。

大阪支部長
つくし病児保育所
協仁会 小松病院 小児科　原田佳明

第26回 全国病児保育研究大会 in にいがた

地域ネットワークの中の病児保育

● 会　　頭　佐藤　勇
（よいこの小児科さとう 病児保育室よいこのもり）

● 実行委員長　早川　広史
（早川小児科クリニック 病時保育室カンガルー）

加盟施設紹介

施設名　こどもの森クリニック付設「病児保育室 森のおうち」

所在地　新潟市江南区亀田向陽1-3-41
TEL 025-382-0707

記入者名　鳥谷部　森（こどもの森クリニック院長 小児科医）

開設日　平成25年9月1日

定　員　6名

スタッフ　医　師　1名
看護師　3名（クリニックと兼任）
保育士　7名（常勤3名、パート4名）

当施設は新潟市郊外の住宅地に立地し、お仕事をお持ちのお母さまがとても多い地域です。毎日多くのお子さまに「森のおうち」をご利用いただいています。

開設時からの「こだわり」に、ビデオやゲームを使わない保育があります。保育士さんたちが、毎日工夫をこらしています。体調の許すお子さんたちは、工作やお絵描きなどの創作遊びで盛り上がっています。出来上がった作品はおうちへ「おみやげ」。ご兄弟が「僕も森のおうちへ行きたい！」と駄々をこねるほどです。夏祭り、秋祭り、入学のお祝いなど、季節ごとに工夫を凝らしたイベントも大好評です。

これからも地域のお子さまとママの笑顔のために、スタッフ一同がんばってゆきたいと願っています。

協議会からのお知らせ

今年度より事務局を委託することになりました

現在移行中のため、皆様にご不便ご迷惑おかけしますが、しばらくの間ご容赦願います。これに伴い、年会費のお問い合わせは、下記にお願いいたします。

〒160-8306 新宿区西新宿5-25-11-2F
㈱日本小児医事出版社内（担当：佐藤 貴志）
TEL 03-5388-5513　FAX 03-5388-5193

会員専用ページについて

パスワードを入力してご覧いただけます。パスワードは定期的に変更されますので、協議会からのお知らせでご確認ください。

（一社）全国病児保育協議会会長
稲　見　　誠

編集後記

今回は各地の活発な支部研修会の様子をお伝えしました。まだご紹介できていない支部からの投稿もお待ちしております。

次号は研究大会 in 新潟の PR 版をお届したいと思います。

（ニュース担当　岸本範子）

協議会ニュースに関するお問い合わせ先
一般社団法人 全国病児保育協議会 広報委員会
担当：藤　本　　保
〒870-0943 大分市大字片島83-7
大分こども病院
FAX.097-568-2970
E-mail:byouji@oita-kodomo.jp

Printed by